

アルコール依存症者の作業療法 実践の流れ

	急性期 (1週間以内)	回復期前期 (1週間以上～1カ月以内)	回復期後期 (1～2カ月)	社会生活維持期
患者状態と 主な支援	<ul style="list-style-type: none"> ◎体内から薬物を解毒する時期 ◎バランスの良い栄養の摂取 ◎内科的・身体的合併症治療 ◎身体機能の回復や廃用症候群の防止が求められる ◎禁酒生活 ◎断酒の動機づけ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎断酒後の易刺激的、易怒的、情動不安定な時期 ◎頭痛、いらいら、歯痛、不眠など身体的訴えが多くなる ◎入院生活への不満、過剰な断酒の自信を表明し、退院を要求する ◎弱い患者や若いスタッフに対し、「いじめ」「揚げ足取り」、攻撃を向ける ◎生活リズムの乱れと昼夜逆転 	<ul style="list-style-type: none"> ◎飲酒行動の修正のための援助 ◎対人行動のゆがみを修正するための援助 ◎精神的安定化を図る ◎アルコール関連問題に対する支援 ◎自助グループなど社会資源の利用に関する助言指導 ◎退院・社会復帰への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◎社会・経済的安定への援助 ◎家庭生活の安定への援助 ◎断酒行動の継続的支援
目的	<ul style="list-style-type: none"> ◎身体機能の回復 ◎認知機能障害の回復 ◎感覚運動機能の回復 ◎廃用症候群の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ◎疾病や生活機能における強み・弱みの理解と教育 ◎物の操作能力や体力の回復 ◎セルフケアの自立 ◎活動と休息のバランスなど生活リズムの獲得 ◎知識の応用能力の回復 (問題解決能力、意思決定など) ◎課題遂行能力の回復 (課題や日課の遂行、ストレスへの対処など) 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家事など IADL の自立 ◎良好な対人関係の回復 (集団内での人間関係、場面適応、役割行動の獲得) ◎就労など経済的自立の獲得 ◎自助グループなど社会資源の利用方法の獲得 ◎レクリエーション・レジャーの獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ◎社会・日常生活の維持と不安の軽減に相談・支援 ◎家族関係等対人関係上の必要に応じた相談・支援
評価内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎入院前の情報収集 <ul style="list-style-type: none"> □飲酒歴 □飲酒行動パターン □病歴 □職歴 □Occupation 歴とその内容の把握 *以下 Occupation をここでは作業と表記する <ul style="list-style-type: none"> □ADL/IADL 障害の把握 ◎家族・友人の情報収集 <ul style="list-style-type: none"> □家族および親族・友人の飲酒状況 □依存症の理解 □家族・友人関係と協力環境の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ◎認知機能評価 <ul style="list-style-type: none"> □記憶検査：Mini-Mental-Test、記憶力検査等 □注意機能検査：Trail-Making-Test 等 □遂行機能検査：Bacs-j 等 □視知覚：ベントン視知覚検査等 ◎身体機能評価 <ul style="list-style-type: none"> □体力測定 □三軸加速度計などによる身体活動量 □巧緻性・協調性テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ADL/IADL・作業 <ul style="list-style-type: none"> □LASMI □生活行為向上マネジメント □COPM 	<ul style="list-style-type: none"> ◎必要に応じて訪問作業療法での評価 <ul style="list-style-type: none"> □調理環境等 IADL の評価 □仕事と余暇のバランス評価 □ストレス評価
作業療法士の支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ◎作業療法のオリエンテーション (アセスメントによる作業療法で行う治療の説明と理解を得る) ◎身体機能面へのアプローチ (体力・感覚運動機能の回復、廃用症候群の防止) <ul style="list-style-type: none"> □巧緻性・協調性へのアプローチ □身体活動増進へのプログラム □個別の運動プログラム ◎認知機能障害の回復 <ul style="list-style-type: none"> □作業の導入・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎教育的アプローチ <ul style="list-style-type: none"> □疾病の理解等 ◎作業を通じたアプローチ <ul style="list-style-type: none"> □自己能力の確認 □成功体験による自己有効感の回復 □失敗時への対応方法などの習得 □他者との良好な関係の体験獲得 ◎対人関係改善に向けたアプローチ <ul style="list-style-type: none"> □Social Skill Training (SST) □サイコドラマ □小集団での療法の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ◎生活障害に対するアプローチ <ul style="list-style-type: none"> □食事・調理技能の獲得 □掃除技能の獲得 □金銭管理技能の獲得 □買い物技能の獲得 □余暇 (レクリエーション・レジャー) の獲得 ◎断酒へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> □ピアカウンセリングの場の提供 □セルフヘルプグループの育成または導入 ◎断酒優先の就労へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> □能力評価に基づく相談・支援 ◎家族へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> □家族の評価および受け入れに向けての教育 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日常生活の把握と相談支援 (買い物、調理状況、金銭管理など) ◎就労状況の把握と相談支援 ◎対人関係上の不安の把握と相談支援 (家族、友人、職場の人間関係など) ◎断酒への継続的支援 <ul style="list-style-type: none"> □AA □断酒会 □その他のセルフヘルプグループ
留意点	<p>急性期の患者状態を理解した上で、受容的な対応をする。また、筋力や認知機能の低下があるため、運動の場面では転倒を含むリスク管理に留意する。</p>	<p>断酒に向け、病気についての気づきが得られるよう作業を通して意識づけに留意する。また、集団での活動にも適応できるよう援助する。</p>	<p>あせらず、ゆっくりとかわかり、一定のルールを決めて、社会生活に向け支援していくことが大切である。同じ病気の仲間との交流を促していく。</p>	<p>対象者の地域生活の状況を把握することとファミリーケアに留意する。</p>

アルコール依存症者のための 作業療法

Occupational Therapy for Alcoholics

◆はじめに◆

○なぜ、アルコール問題への取り組みが注目されるのか？

わが国の飲酒量は、戦後から最近まで増大し続け、それに伴い様々な飲酒問題が生じてきました。一般成人における飲酒パターンおよびアルコール関連問題の実態について、有害な使用に該当するものが男性の4.8%、女性の0.5%、そのうちアルコール依存症が、それぞれ1.9%、0.1%であり、依存症者の数は、81万人と推計されています。

一方、厚生労働省の調査によると、アルコール使用による精神および行動の障害で実際に治療を受けている患者数は年間5万人前後とされ、適切な治療を受けていない患者が数多くいると考えられています。

また、入院患者のうち14.7%は飲酒がらみであり、健康問題に限っても、世界保健機関(World Health Organization:WHO)は、60以上もの病気や外傷がアルコールによって引き起こされていると報告しています。

さらに、健康問題に加えて自殺、事故、家庭内暴力、虐待、家庭崩壊、職場における欠勤、失職、借金など社会問題も大きな比重を占めています。特にアルコール依存症の合併や飲酒問題はうつ病の自殺の危険性を高め、自殺者全体の15～56%にアルコール乱用または依存がみられたと報告されています。

このように、アルコールの問題は、これまでの患者自身の健康や生活の障害、家族、被害を受けた方々の心理的問題だけではなく、いまや社会的問題となっているうつや自殺予防、成人病の予防など、国あげての重要な取り組み課題となっています。

◆アルコール依存症者のための作業療法◆

作業療法では、アルコール依存のメカニズムを理解し、代謝系をはじめ心身機能の障害や日常生活の活動のよりよいパターン、対人関係の改善などを目的に、その人にとって重要な、大切な、意味のある作業がうまく行えるよう指導、練習することで、リハビリテーションチームの一員として、依存症者のリカバリーを支援していきます。

◆本マニュアルが目指すもの◆

作業療法士がアルコール問題に興味をもち、アルコールの問題を抱える人々の相談が適切に行えるための1つの手引きとなればと考えます。

編集担当者 村井千賀

